

社会資本整備審議会道路分科会 平成 27 年度第5回中国地方小委員会
《議事要旨・議事録》

1. 日 時

平成 28 年 3 月 3 日 (木) 13:00～14:40

2. 場 所

中国地方整備局 建政部 3階 第1、2会議室

3. 出席者

<委員>

- | | | |
|---|-----------------------------------|----------------------------------|
| ◎ | <small>ふじわら あきまさ</small>
藤原 章正 | 広島大学大学院 国際協力研究科 教授 |
| | <small>いいの きみお</small>
飯野 公央 | 島根大学 法文学部 准教授 |
| | <small>こじま みつのぶ</small>
小嶋 光信 | 両備グループ代表兼CEO |
| | <small>すずき はるな</small>
鈴木 春菜 | 山口大学大学院 理工学研究科 准教授 |
| | <small>やまだ ともこ</small>
山田 知子 | 比治山大学 現代文化学部
マスコミュニケーション学科 教授 |

※敬称略 ◎は委員長

4. 議 題

- (1) 計画段階評価について
山陰道(俵山～豊田)

5. 結論

山陰道(俵山～豊田)の対応方針(案)「【案1:旧豊田町側ルート】の全線自動車専用道路とする。」及びインターチェンジの配置案は妥当と判断する。

※付議

山陰道(俵山～豊田)のルート帯決定・整備に合わせ、周辺地域を結ぶ道路の一体的な連携整備がかかせないことを地方小委員会として付議する。

6. 委員からの主な意見

○ルート帯の選定に関すること

- ・人口減少時代ではコンパクト＋ネットワークが重要であり、「どの地域にコンパクトにまとまるのか、ネットワーク結んで安全・安心や速達性を確保するか」が2050年までの大きな課題の一つであり、既存の主要な地区をネットワークで結ぶ案①は理に適っている。
- ・案①としたルート帯の選定及びIC設置位置ともに対応方針（案）については、客観的・理論的、意見聴取結果からしても妥当である。

○意見聴取結果に関すること

- ・複数を選択する回答については、総数ではなく回答者数に対する割合で示す方が、分かりやすく説得力もある。
- ・事業化後ではなく計画段階からオープンハウス、HPなどでの能動的なアンケートも今後検討してもらいたい。

○意見聴取手法（合意形成）等に関すること

- ・意見聴取には広報的な狙いもあり地域の人に考えて頂き、必要性を感じて頂くためには重要なプロセスと考えるが、住民の負担を減らすという観点では、一部をパブコメや報告を兼ねた意見聴取方法の検討が必要である。
- ・意見聴取は、手続を効率的に進めることにより道路整備の透明性が高まり地域住民の理解が進む利点もある。
- ・高速道路網等の道路ネットワークから取り残されると地域の過疎化は今より早いペースで進む。「地域活性化に繋がる」というと理解が得られないが、今の状態を「少しでも長く持続させるために必要な計画」と説明することで理解が得られやすいのではないか。また、地域住民に対して理解を深めていくことは県の役割でもあり連携して説明することが必要。
- ・災害時の避難・流入ルートとして、広域的なネットワークの視点から必要性を説明していくことも重要。
- ・意見聴取の回数が多いという意見があるのは、意見聴取結果のフィードバックが十分でないということが要因の1つと思われる。瓦版やHP等で常にフィードバックし、計画に反映されていることを示すことが重要。
- ・意見聴取について、同様のアンケートが繰り返される点を「負担である」との意見が出ており、計画の合意形成の過程や手順において効率的かつ負担の少ない手法の検討が必要と問題提起された。これについては全国でも議論してもらいたい。

以上